

詰将棋全国大会レポート（10）

第10回全国詰将棋大会

1994年5月

府中市 府中市生涯学習センターにて

参加者 97名

詰将棋パラダイス 1994年6、7月号より

第10回

全国詰将棋大会

第10回全国詰将棋大会（全日本詰将棋連盟主催）が、5月4日に東京の府中市生涯学習センターで催され、全国から約百人が参加した。

大会内容は次の通り。

①岡田敏会長挨拶

②来賓祝辞 二上達也日本将棋連盟会長、御林秀夫日将連府中支部長、永井英明近代将棋社長、大崎善生将棋世界編集長、水上仁詰将棋バラダイス社長

③看寿賞贈呈式

④記念講演 伊藤琢巳氏（NTTソフトウエア研究所）「詰将棋プログラム、電脳解人々の実力」

⑤参加者の一言

⑥詰将棋タービー、電脳解人に挑戦

⑦懇親パーティー

▲伊藤琢巳氏



詳細は清水英幸氏が次号で報告する。

〔参加者（97人）〕

岩手 原田章雄
群馬 阿部健治 北川 明
埼玉 稲葉元孝 大村昌利 小沢正広
橋本孝治 三谷郁夫
千葉 河村治男 小林敏樹 東 公平
東京 京子 安江久男
東京 天野竜太郎 伊藤琢巳 伊藤智子 伊藤三雄 大崎善生 大橋健司 岡本真一郎 巨椋鴻之介 越智信義 金子清志 小泉 深 護堂浩之 佐藤宗弥 清水英幸 清水 弘 新ヶ江幸弘 角 建逸 相馬慎一 相馬康幸 田口

▲会場のひとつ



正明 富樫昌利 富沢岳史 中島 一 仲西哲男 橋本 哲 原岡 望 藤井 国夫 藤沢秀樹 二上達也 堀口弘治 松野清次 御林秀夫 森田正司 安田 和雄 山崎順康 山下雅博 山田康平 湯村光造 吉橋和夫 米満 啓



▶岡田敏全詰連会長

神奈川 飯尾 晃 馬詰恒司 門脇芳雄
 雄 河原泰之 菊田裕司 小坂英世
 塩野入清一 鈴木龍晴 高田淳一 田高幹也
 永井英明 永井英弥 星野健司 穂上武史
 松田圭一 森 敏宏 柳田 明 和田 登
 愛知 関 吞舟 深井一伸 三重 清水一男
 京都 田代達生 筒井浩美 平田 正 大阪 明石六郎
 高坂 研 小島正司 長谷繁蔵 弘光 弘 若島 正
 兵庫 宇佐見正 水上 仁 柳原裕司 奈良 岩本 修 岡田 敏
 島根 高見秀夫



▶二上達也日本将棋連盟会長

広島 秋本浩志 山口 山本善章
 香川 井内直紀 来嶋直也 斎藤博久 福岡 八尋久晴
 佐賀 太田慎一 【寄付】
 秋葉原ラジ才会館(五万円、将棋墨酔二冊ほか) 伊藤琢巳(二万円) 二上達也(二万円) 御林秀夫(二万円) 永井英明(二万円) 水上仁(二万円) 鶴田寿美子(二万円) 創棋会(二万円) 北村憲一(六千円) 伊藤三雄(五千円、ビール一打) 門脇芳雄(五千円、著書五冊) 中島一(五千円) 詰将棋研究会



▶パーティーでは四人将棋も

(詰棋めいと十冊) 東京詰将棋工房(K O B O十冊) 森田正司(洋酒二本) 小西逸生(果物一箱) 佐々木聡(銘酒一本) 東公平(タコツボゲーム十組) 藤井国夫(賞品多数) 以上敬称略

全国大会レポート

清水英幸



右から二上達也、永井英明、大崎善生、水上仁、岡田敏の諸氏

平成6年5月4日。詰棋界、年に一度のお祭りである詰将棋全国大会が、

東京は府中市の生涯学習センターで行われた。当日は悪天候が予想されたが、幸い午前中は晴れ。私はビデオカメラ片手に、開始1時間前に会場へと乗り込んだ。

会場となる2階の部屋はセットイングの真つ最中。全話連幹事の方は前日より泊まり込んでおり、午前中は幹事会もあつたとの事。バラ編集長の柳原さんも、すでに部屋の後方に陣取り詰棋書販売の準備をしている。私は途中で買ったおにぎりをパクつき腹ごしらえ。そうこうするうちに早くも受付が

始まった。

参加者約百名！

今回一体何人の人間が集まるのか、実に不安であつたが、百名以上座れる席があらかた埋まつていく。中々好調な滑り出した。盛り上がりそう、という期待がいやがうえにも高まる。

定刻より5分遅れで開会。午前の部の司会は柳田明氏だ。まずは岡田敏全話連会長による開会の挨拶。続いて来賓祝辞。二上達也日将連会長、御林秀夫日将連府中支部長、永井英明『近代将棋』社長、大崎善生『将棋世界』編

集長、そして我らが水上仁『詰バラ』社長と続く。永井氏は「どこへ行つても、NHKの永井」と言われる。久し振りに「近代将棋の永井」と紹介され、大変嬉しい」と会場を笑わせていた。また二上会長と大崎氏には単なる祝辞だけでなく詰棋界への提言も下さり、詰将棋ファンとして有り難かった。

看寿賞発表

続いて看寿賞の授賞式。看寿賞委員会事務局の森田正司氏より選考経過の報告。続いて岡田会長より賞牌の贈呈



看寿賞選考経過を報告する森田正司氏

がなされた。受賞者は若島正、相馬慎一、小沢正広の各氏（長編の河原泰之氏は懇親パーティーより来られ、そこで賞牌を受け取っていた）。この賞牌、時計の横に受賞作の図面が彫り込まれた大変立派なもの。後でしげしげと観察させて貰ったが、詰将棋作家なら一度は手にしたいような一品だ。

電腦解人の実力

続いて伊藤琢巳氏による記念講演が始まる（※詰バラ誌上や当日プログラム等で「啄巳」と記されてありました）が誤りです。お詫びして訂正します。

伊藤さんごめん。本誌解答でお馴染の詰将棋解図プログラム「電腦解人」について、その解図ロジックとバラでの成績を中心としたお話。OHPも使い分かり易く話して頂いたのだが、アルゴリズムに関してはやっぱりリムツカシィ。しかしバラ解答成績の話となると、

電腦解人の実演。8勝16敗は不本意な成績？



「幼稚園や小学校は10秒あればほぼ100%。高校なら七割。短大は50秒以内で半分」とか、誤解や解けなかった問題の原因分析など、大変面白かった。

講演からアトラクションまでの間、3階の別室では伊藤氏のワークステーションを持ち込み、参加者が持ち寄り

た自信作を電腦解人に解かせる実演も
行っていた(図面入力係は山下雅博氏
&伊藤さんの奥さん)。またその隣では
門脇芳雄氏の詰将棋データベースをパ
ソコン上で展示しており、堀口弘治六
段や近将の森編集長がかなり熱心に見
ていかれたとの事だった。

写真撮影

記念撮影。予定では5時以降にする
筈だったが、天気が急速に悪くなり休
憩時間中に行くことになった。全員玄
関前に降りていく。何しろ百名近い大
集団なので、一枚の写真に納めるのが
大変なのである。

ここで山崎順康(よしみち)さんに
捕まる。「この人が難しい作品を作るん
だ」と言われる。思い当たるフシがな
いので首を捻っている。「作った本人
は分からないんだよな」と豪快に笑っ
た。面白い人だ。山下さん情報によれ

ば、大学で数学を教えている先生らし
い。

小雨に笑顔で写真に納まり無事終
了。(写真係の大橋さん、ご苦労様)

一人一言

3時になる。いよいよ全国大会恒例
の「大いなる発言」だ。司会の柳田氏
が「一人1分でも80名で80分ですから」
とあらかじめ釘を刺すのだが焼け石に
水。しかし後半奇跡的にマイクがスム
ーズに進み、十分遅れで次のアトラク
ションに入ることが出来た。

一 詰将棋連盟



本誌のマンガでもおなじみの柳田明氏

ユニークな発言が多く、詰キストの
才に感心する。面白い発言については
後のページに載せましたので、是非お
読み下さい。(何故か一人だけ2回発言
した人がいました。誰とは言いません
が、ねえ、山田さん)

詰将棋ダービー

さて。いよいよここから詰工房主催
のアトラクションが始まる。名付けて
「詰将棋ダービー」。簡単にルールを説
明すると、会場を馬場に見立て3問の
問題を設置。出場者は問題を解きなが
ら進み、早くゴールした馬が優勝とい
うもの。観客にはあらかじめ各レース
毎の問題を配っておき、1位と2位の
組合せを予想、投票して貰う。問題は
詰将棋とクイズの選択形式となってい
る。(この催しのため、あらかじめ受付
で『競馬KOBQ』を配布し、15名の
ダービー参加者も募っておいた)

私は突然前に出てマイクを握ると、司会権実担当に早変わり。金子清志氏と柳田氏に予想を立てて貰う。第1レース、金子氏が本命に推した弘光弘一は想像以上か？ 観客は自分の賭け

大会 将棋詰

日本将棋連盟
全詰



詰工房主催の詰将棋パーティー

た馬の進み具合に一喜一憂。×の判定を受ける姿が笑いを誘ったり、早い解答時間に驚いたり中々の盛り上がりだった。

レースは予想外にスムーズに進み、各レースの1・2着によるチャンピオン決定戦も実行。頭一つ抜け出した山田康平氏を「頭一つでかい」と角さんの声あり、国語問題で差し切った菊田裕司氏が優勝した。この2頭は本当に強い。

解答の方では2レース的中させた方が7名。中でも田高幹也氏は第2レース唯一人の正解者。万馬券の中ということで、賞品に『将棋墨酔』を手にした。

懇親パーティー

5時半から1階のレストランに場所を移して懇親パーティー。「食って飲むだけ」の世界なので気が楽だ。ここで

司会は角建逸氏にバトンタッチ。「乾杯！」を唱和するや食い物に取りかか。普通立食形式では人数の8掛けで頼むのが定跡だが今回はまる百人分。流石に幾ら食べても減らない。(というのはややオーバーだが)

柱には明石六郎氏らの懸賞詰将棋3題が貼られる。また、電脳解人による解答競争の結果発表も。全24題応募のあつたうち16局が解けず(今回は3分で打ち切つたらしい)。中でも特筆は湯村光造氏の塚田賞13手詰が解けなかったことか(手数指定では34秒で正解)。なお、今回会場に持ち込んだマシンは

大会 全詰



パーティーの司会は角建逸氏しかいません

普段研究用に使用されてるものより数段性能が落ちるとの事である。

会場では同時に大盤による四人将棋(駒二組使用)や東公平氏考案の新ゲーム「たこつぼ」のトーナメントが行われた。また、ここでも伊藤氏がマシンを持ち込んで電脳解人进行操作、横では高田淳一氏がコンちゃんをパソコン上



人気沸騰のタコツボ。東公平氏(中央)が考案

で起動し競争。沢山の人の輪が出来ていた。

話に花の咲く人、料理を頼張る人、アルコール一筋の人、詰棋を解く人、四人将棋を観戦する人……近将・森さんの挨拶や第3回詰将棋大賞発表の声が聞こえなかったのも無理からぬところか。私はといえは明石さん披露の「四隅将棋」に参加。面白いルールだったが、如何せん時間が短かく最後まで指せなかった。(二局続けて棋譜を採っていた藤沢さん、ご苦勞様)

ダービーや懸賞詰将棋などの賞品が手渡される。かなりの人が賞品を手に入れたようだ。(私は何も貰わなかったが)

ここでお開き。学習センターに泊まる人、家に帰る人、飲みに行く人、麻雀打つ人……。雨の中、名残り惜しみながら思い思いの場所へと別れていく詰キストたち。夢のような数時間は、こうして幕を閉じたのであった。

懇親パーティーで出題された詰将棋3局のうち、明石六郎氏作(☒)は週刊将棋5月11日号に懸賞出題されました。他の2局は今月号に懸賞出題いたします。

持駒 銀香

					香	王		香				
				銀	香		歩					
								歩	香			

- 21歩成、同玉、24香、23飛合、同香生、32玉、34飛、33飛合、21銀、31玉、33飛成、同銀、41銀成、同玉、31飛、同玉、32金迄17手。

大いなる発言より

小島正司—大阪阪和線の府中駅から乗りまして府中市に来ました。全国に府中は沢山ありますが、四国の徳島のはコウと読むそうです。何故かといいますが、殿様が「ここは何処じや」「府中です」「不忠者め」となつて、「親孝行の孝にせい」となつたんだそうです。そういう風な格好で、私は全詰連の勘定奉行を仰せ使つております。

東公平—私が普通の職業に着かずに奨励会入ったり観戦記者になつた原因はパラダイスにあります。中学3年の頃にある人から「大道棋五百番」という厚い本を買つたんです。それを見て驚いたんですね。こんな世界があるのかと。本当にびっくりした。それがきっかけです。以来本當に

読むだけの読者でございます。

富沢岳史—詰パラの検討のごく一部を受け持つております。大変ご迷惑をおかけしておりますが、皆様は作意ばかりでなく余詰の方も楽しんで頂くようにお願い致します。

安江久男—会員歴を先程数えてたら26年位になるんですが、先程閑半治さんが仰つてたように「解けず作れず」というやつ。それでも何故か入選2回位あるんですね。将来、作品集夢見て百題作ろうと考えると、千年位生きないといけない。どうやって千年生きようか、これからゆっくり考えてみたいと思います。

佐藤宗弥—昨年は鈴木さんと一緒に『うづ潮』を作りまして、その後皆さん続々と作品集を作られて嬉しく思っています。今、国家試験の問題を作つてまして、そっちの方の余詰があると大変なんで、そちらで精一杯です。

秋本浩志—二桁を超えるほとんど長

編に近い頭なんで、見栄で買った『詰むや詰まざるや』もほとんど「読むや読まざるや」になつてます。

高坂研—僕と山田康平君がえらい仲が悪いという誤解があるようですけど、そんなことはないんです。

中島—週刊将棋から取材させて頂いております中島一（はじめ）と申します。今回初めて参加させて頂きまして、詰パラは読んでますので、どういう方たちだろうと思つたら、案外普通の方たちだったので、安心しました。



普通の人たちばかりで良かったですね。週刊将棋のナカピンこと中島一氏



山田修司氏と並んで一時代を築いた構想派といえ、もちろん巨椋鴻之介氏

巨椋鴻之介―昭和30年代に熱中して、それからやめてしましまして……。

ところがいろいろなことがあって、湯村さんとか森田さんとかお名前を拝見するとまたやつてみようかなと思わうんですけど、これは意志と違う奥の方で何か動くので……。こういう所に来たりして自分に技をかけてます。今日は大変に刺激になりました。湯村光造―森田さんの『詰棋めいと』に「歩詰手筋総まとめ」というのを書いてまして、先日私の古い友人で某大学の語学部長やつてる男に「歩詰手筋」を見せましたら、「これは博

士論文になるぞ」と言うわけですね。

「何博士が貰えるかね」と聞きましたら、「これは数学に近いから理学博士かもしらん」。また「詰将棋の歴史が書いてあるから文学博士かもしらん」と。「ただ残念ながらこれを審査する先生がいらない」いや、そんなことはないんで、今日お見えになつてる巨椋鴻之介先生とか若島正先生に審査して頂ければ、これは一緒に取れるんじゃないか。

田高幹也―パラをとりました約5年。詰キスト達の間模様が好きて本を読んでいます。これからも狂気の世界を外から見たいと思います。

弘光弘―会合に参加するしか能のない者ですがよろしく願います。

小坂英世―私、職業は医者ですが、専門は精神療法と漢方なんです、昨年全くの暇つぶしに詰将棋をちよつと試みてみたところ、予知能力が開発されるということに気が付きまし

た。これは私の研究している治療法に関係あるなと思ひまして。私から見ますと詰将棋の達人である皆様方は、すでに超能力者か、或いは超能力者予備軍ではないかと考えております。

稲葉元孝―ここ二年半程「ヤング・デ・詰将棋」の方に作品と短評で名前が出ていまして、「どんなヤングだろう」とお思ひになる方がおられるかと思ひますけど、実態はこの通りでございます。

橋本孝治―コンピュータを使つてフェアリー詰将棋を作つたり解いたりす



コンピュータが「ミクロコスモス」を解く日も近い!? 1519手詰の作者、橋本孝治氏

る神無一族という集団があるんですけど、私も去年辺りから加盟しまして、一応「神無七郎」というコードネー



この人の7手詰を見たいファンは多いはず。A級復活なるか、小泉潔氏

懸賞

全国大会記念 詰将棋

〔締切〕7月末日消印

〔呈賞〕3名

② 入選57回

東京都 相馬康幸

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				と	王	と			
			と	王	詰	と			

持駒 金金金桂桂歩
一 二 三 四 五 六 七 八 九

② 入選62回

東京都 岡本真一郎

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				王					
			馬		桂	銀			
			歩	歩		香			
			銀		角				

持駒 香香
一 二 三 四 五 六 七 八 九

△で活躍したいと思っています。

小泉潔―最近は順位戦にしか出てない

んですがこの間落っこちやいまして、

さっき聞いたなら「今回はもう投稿締

め切り過ぎてるよ」と言われてです

ね、もう涙、涙ですけども。来年度

はC級で頑張りたいと思います。

三谷郁夫―現在二度目の冬眠中として

パラは読むだけ会員。一応詰工房も

入ってるんですが、詰工房は飲むだ

け会員という……。21世紀までには

復活したいと思っています。

田口正明―今日は憧れの大作家の皆様

にお会い出来ましたので、是非パー

ティー席上でサインを集めたいと思

いますのでよろしくお願いします。

太田慎一―遙々佐賀県からやって参り

ました。僕も遂に大学を卒業しまし

て、地元の仕事の方で働いていま

す。九州に帰ったら何も楽しみがな

いんで、わざわざこんな所まで出て

来てしまいました。